

クラス	Q304	担当教員	小平 英志
テーマ	パーソナリティと適応、精神的健康		
著書・論文 研究課題等	<p>(著書)『生きがい感:「自分探し、生きる」とは?』 松島公望・橋本広信(編) ようこそ! 青年心理学—若者たちは何処から来て何処へ行くのか, 第9章、2009年、ナカニシヤ出版 他</p> <p>(論文)『高校生における仮想的有能感と学業に関するコミュニケーション』 心理学研究 79巻、2009年、共著/『大学適応の階層性に関する検討—保育系短期大学生を対象に—』 子ども発達学論集、3号、2011年 など</p> <p>(最近の研究課題) 青年期の自己概念、他者軽視傾向、動機づけ、児童期の授業行動</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード: 性格、人格、パーソナリティ、適応、精神的健康、青年期			
<p><b>ゼミの目的</b> 元気そうに日々を送っている人でも、上手くいかず悩んだり、苦しんだりすることはたくさんあります。まさに「人生は綱渡り」であり、風が吹き荒む中、我々はバランスを取りながら、何とか綱を渡って生きているわけです。では、人はそれぞれどのような方法で、そのバランスを取ろうとするのでしょうか。</p> <p>環境へと何とか適応しようとする様子には個人差があり、その独特の調整の仕方を決めているのがパーソナリティ(人格、性格)です。パーソナリティは、人を生きやすくし、また生きにくくもします。ゼミでは、「適応」と「精神的健康」の2つをキーワードとして掲げ、現代において、人が外的・内的環境に適応して生きていく上で必要なものは何なのかを、パーソナリティの視点から検討を行います。抽象度・自由度の高いテーマですので、まずはひとりひとりの身近な出来事や事例、素朴な疑問から出発し、最終的には学術的研究の形にしていきます。これらのプロセスを経験することで、自分が疑問に思ったことを、心理学的手法を用いて明らかにする手続きを学んでいきます。</p> <p><b>授業計画</b> 3年次には、まずは議論慣れをするために、①ディベートのトレーニングから始めます。その後、②学術論文の読み方を学び、心理学の研究のスタイルや論の展開、証拠の示し方(統計的検定)などを理解した上で、論文の内容を題材に議論していきます。後半には、③卒業論文作成に向けて、各自レビュー(論文収集と整理)を進め、予備調査を実施していきます。4年次にはそれぞれのテーマに従って個人研究を進め、ゼミでの発表を重ねることで最終的に卒業論文としてまとめていきます。</p> <p><b>卒業研究の形式</b> 卒業研究では、実証的な方法(調査法・観察法・面接法・実験法、ケース・スタディ等)を用いた研究論文を作成します。共同研究は原則として行わない予定です。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミのスローガンは「がっつり、どっぷり心理学」です。心理学の証明の方法や説得の仕方は、卒業後にどのような道に進む上でも役立ちます(少なくとも担当教員はそういうふうと考えて教えています)。</li> <li>・人の心理について深く考えたり、友達と真面目に議論することができるゼミをめざしています。知的な発想や発見を生む雰囲気全員で作っていきましょう。心について議論したい人、大歓迎です。</li> <li>・3年生と4年生で積極的に交流をしていく予定です。先輩・後輩達の関心や研究内容を知ること、心理学的研究の知識を深めていって欲しいと思います。</li> </ul>			